

## 浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

浅間山では、地震活動や地殻変動に、変化がみられています。

火山活動がさらに高まる可能性がありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

### 防災上の警戒事項等

引き続き、火口から 500m の範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火の可能性があるので、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。突発的な火山灰噴出や火山ガス等に注意してください。

<噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）が継続>

### ○活動概況

浅間山では、15 日頃から、山体の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められ、昨日（21 日）から山体浅部を震源とする火山性地震が増加しています。

#### ・地殻変動の状況（図 1、図 3-⑥、図 6、図 7）

15 日頃から山体の西側の膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められます。GNSS 連続観測では、特段の変化は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3-③~⑤）

山体浅部を震源とする火山性地震の発生回数は、昨日（21 日）から増加しています。

#### ・火山ガスの状況（図 3-②）

17 日に実施した火山ガス観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の 1 日あたりの放出量は 100 トンで、やや少ない状態でした。

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 3①、図 4、図 5）

山頂火口からの噴煙は白色で、噴煙量は少なく、高さは火口縁上 200m 以下で経過しています。火映は、2020 年 11 月 28 日以降観測されていません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

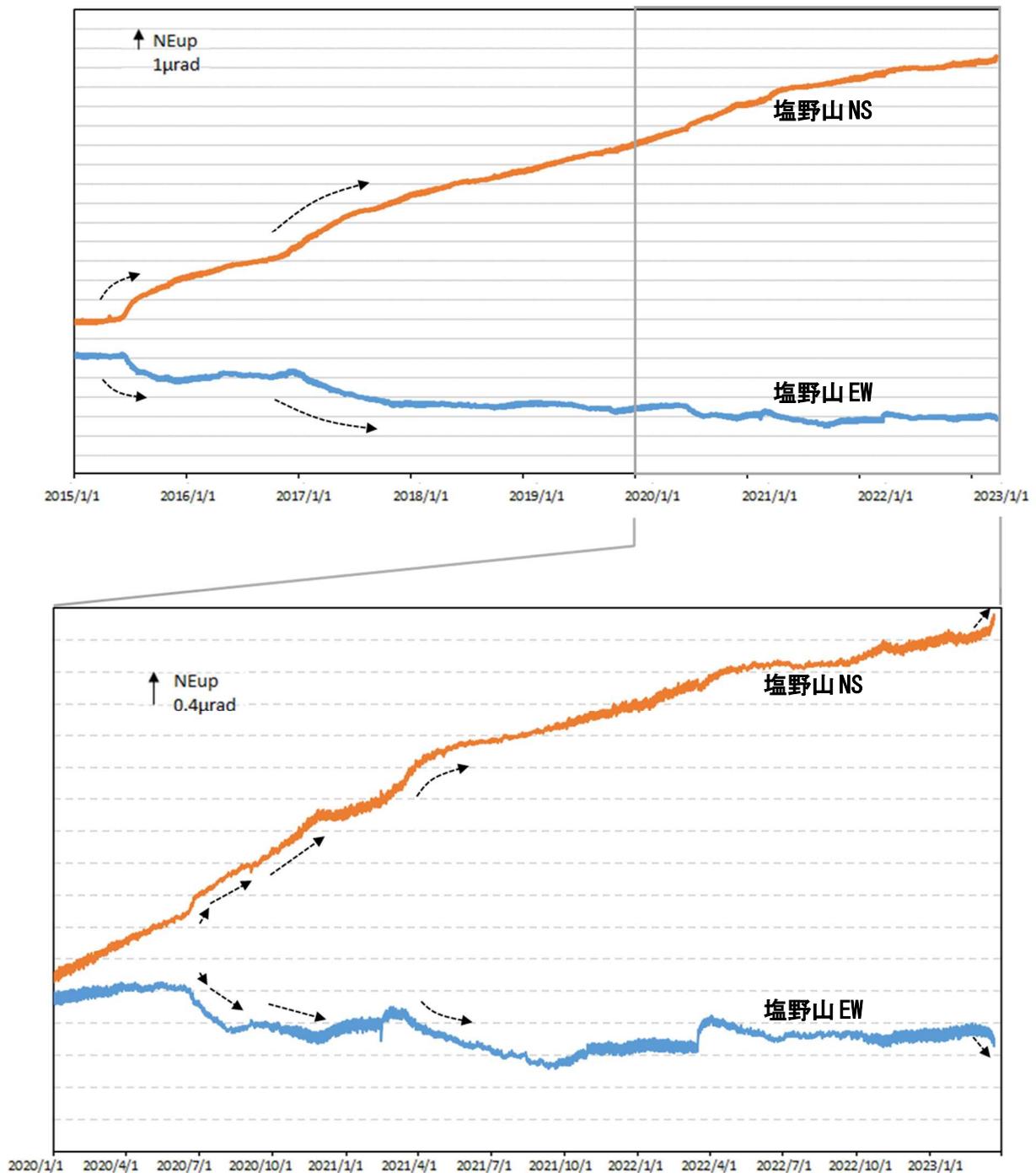


図1 浅間山 塩野山観測点における傾斜データ（2015年1月1日～2023年3月22日）

データは時間平均値を使用しており、長期にわたるトレンドを補正しています。

下段は上段に比べて縦軸を拡大しています。

- ・15日頃から、山体の西側の膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められます。
- ・同観測点において、活動活発時には山体の西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動（矢印）がみられていました。
- ・これらは、浅間山の西側のやや深いところが膨張源と考えられる変化で、深部からのマグマ上昇を示す地殻変動と考えられています。

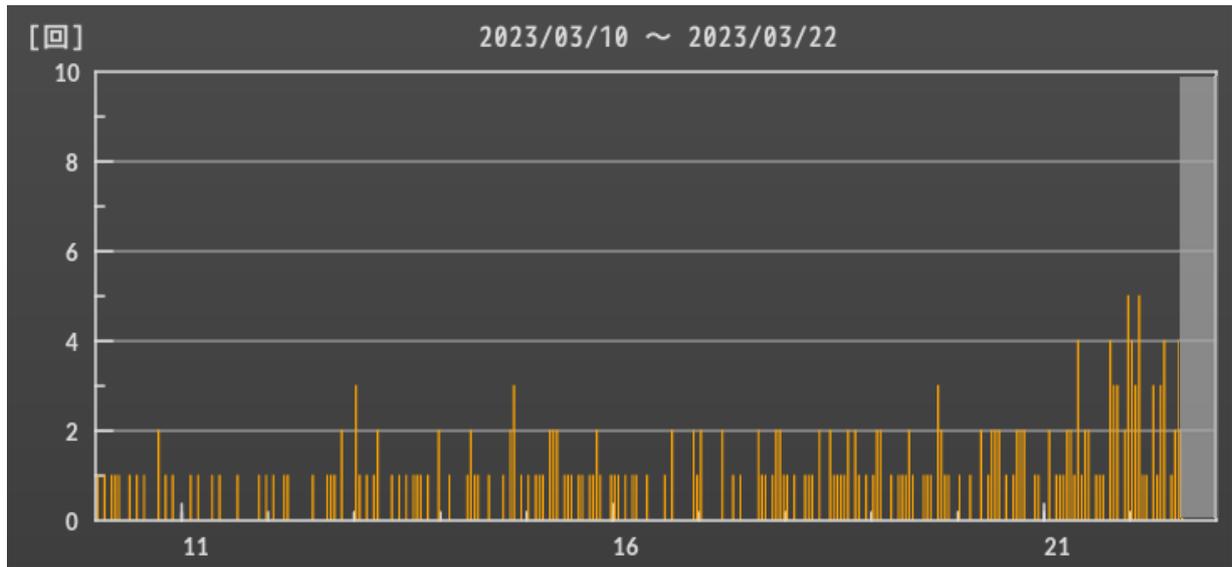


図2 浅間山 時間別地震回数 (2023年3月10日～3月22日14時)

- ・昨日(21日)から、山体浅部を震源とする火山性地震が増加しています。

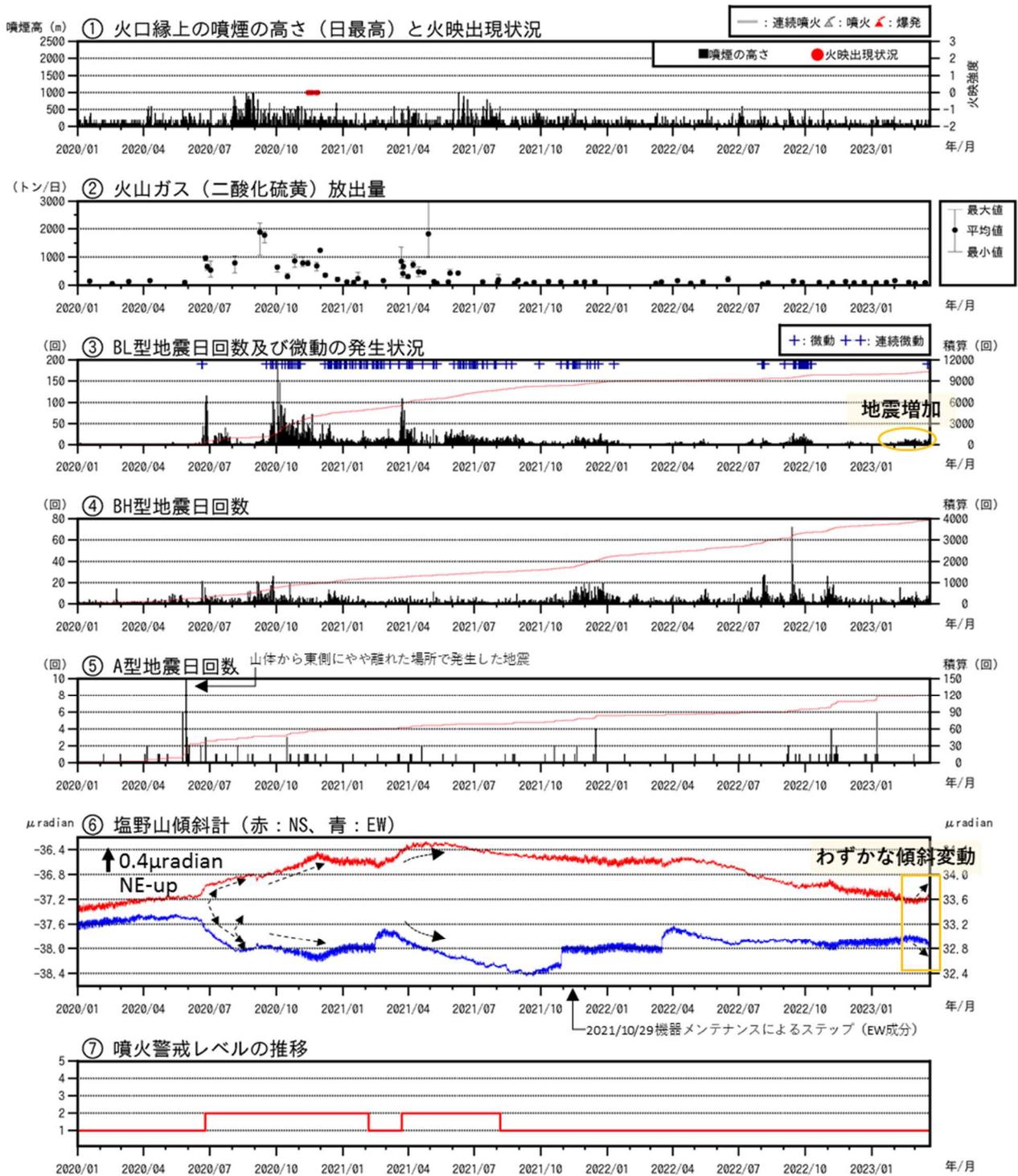


図3 浅間山 火山活動経過図（2020年1月1日～2023年3月22日）

- ・ 2月頃からやや地震の増加傾向がみられます（③）。
- ・ 15日頃から、浅間山の西側の膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が認められます（⑥）。



図4 浅間山 山頂部の噴煙の状況  
鬼押監視カメラ（3月22日）



図5 浅間山 山頂部の噴煙の状況  
追分監視カメラ（3月22日）

- ・ 山頂火口からの噴煙は白色で、高さは期間を通して 200m以下で経過しています。

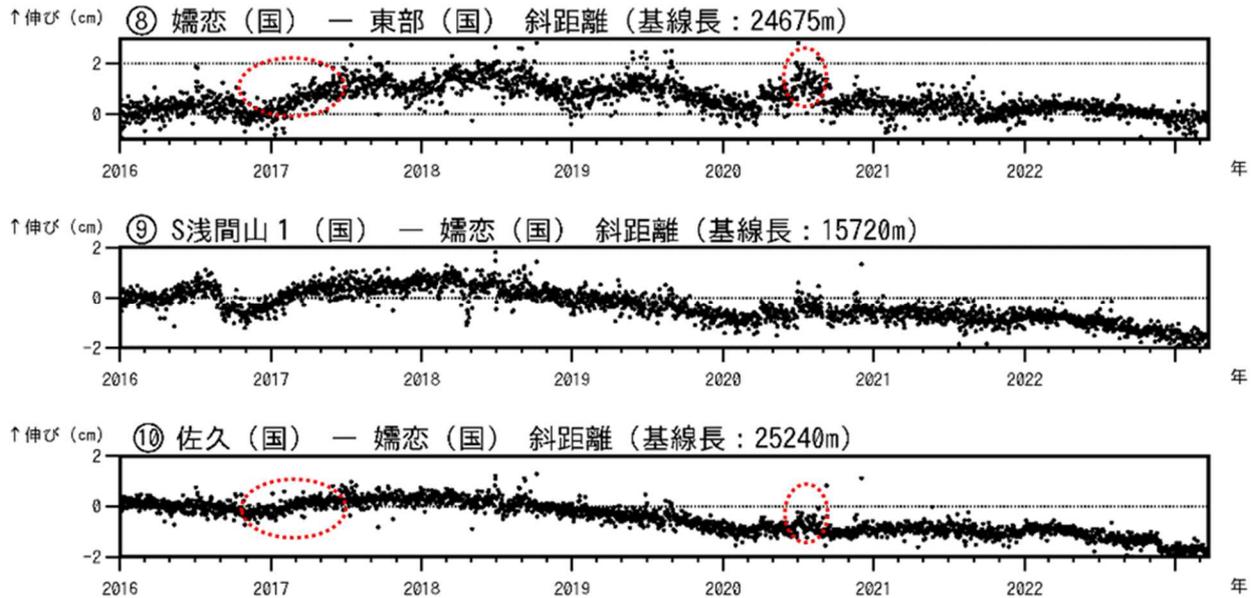


図6 浅間山 GNSS 連続観測結果 (2016年1月1日~2023年3月22日)

⑧⑨⑩は図7の⑧⑨⑩にそれぞれ対応しています。空白部分は欠測を示します。(国): 国土地理院。

・GNSS 連続観測では、特段の変化は認められません。

・過去には、浅間山の西側を挟む基線などでわずかな伸びの変化がみられました(⑧⑩の基線の赤破線の期間)。これらは深部からのマグマ上昇を示す地殻変動と考えられています。

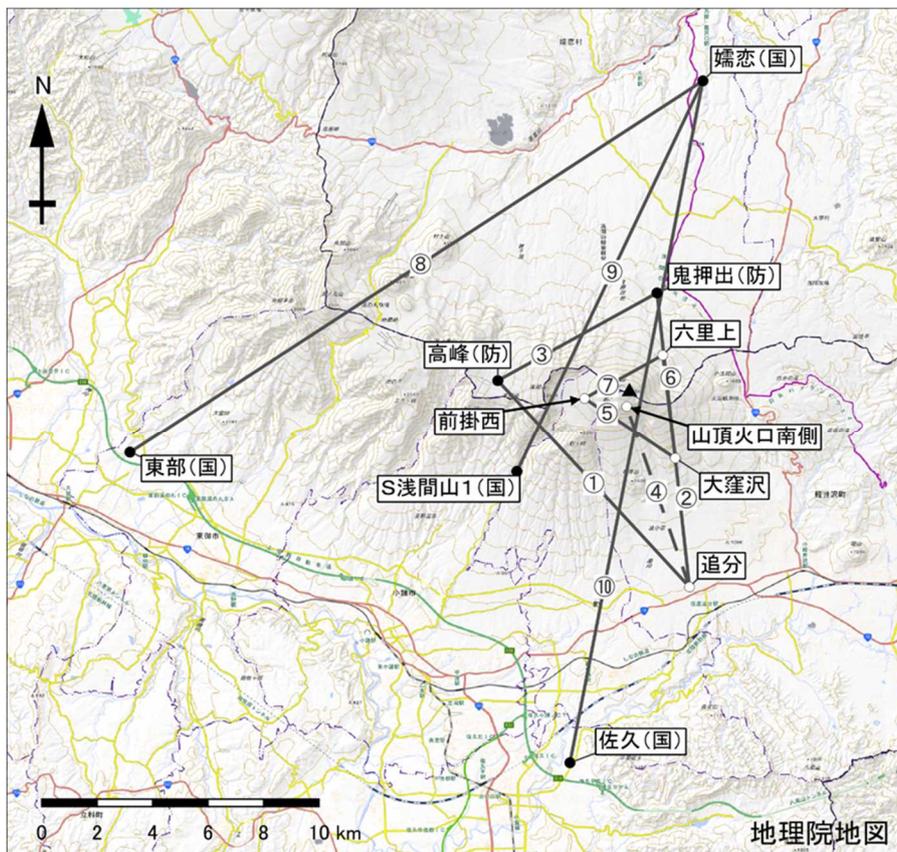
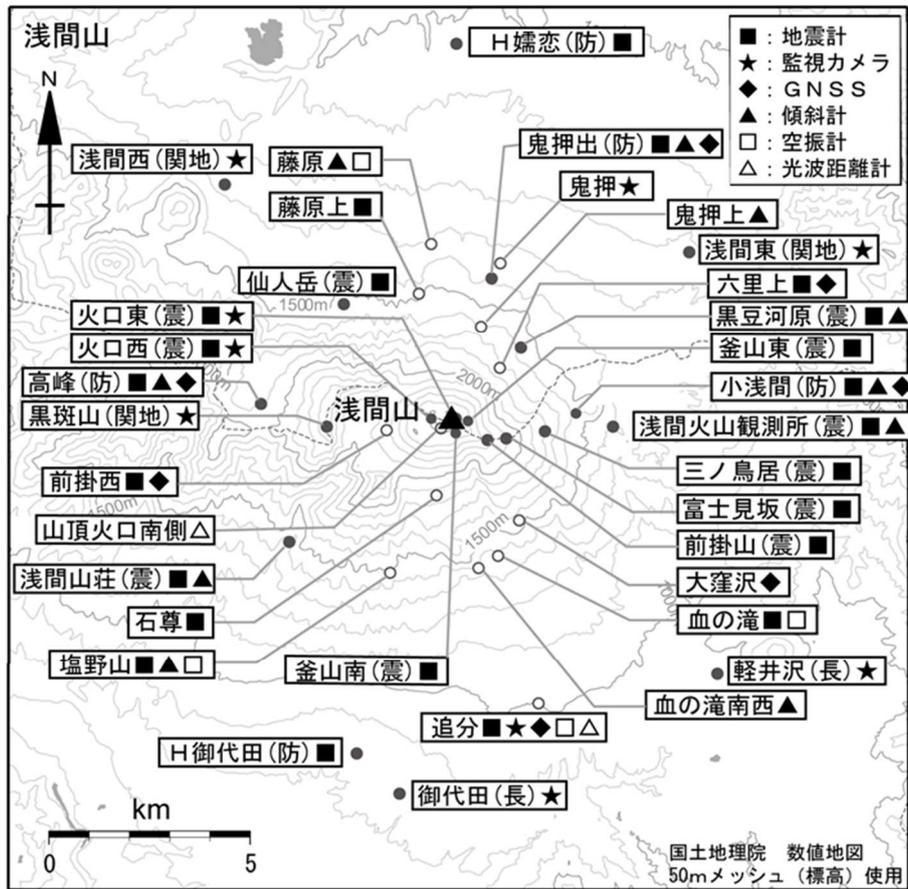


図7 浅間山 地殻変動連続観測点配置図

(防): 国立研究開発法人防災科学技術研究所、(国): 国土地理院

GNSS 基線⑧⑨⑩は図6の⑧⑨⑩にそれぞれ対応しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、  
 (関地)：関東地方整備局、(長)：長野県

図8 浅間山 観測点配置図